

Hospital 病院クローズアップ

国立病院機構

兵庫中央病院

セーフティネット系医療の一翼を担う病院として
患者さんにサイエンス・アートの医療を提供する

当院は一貫してセーフティネット医療を中心とした県下の神経・筋難病の拠点病院です。

神経内科がメインですが、それだけで難病の方をすべて診れるかというとそうではなく、合併症も少なくありません。合併症も含めて診るのが、本当のセーフティネット医療に取り組むということではないかと考え、神経内科だけでなく、一般内科も外科もできるだけカバーしています。

当院の特徴は、神経難病に特化しているだけでなく、障害を持つ患者さんに対していろいろな治療ができ、病院完結型の医療を提供できるということです。今後、そういう機能をいかに維持していくのか、それを考えるのが、院長の役目であると考えています。

セーフティネット医療については、神経難病や重心、結核に限るという考え方もあります。しかし、私はそうではなく、医療の保護が受けられず、困っている人々を救うことではないかと思っています。そう考える医師を育てていきたいのですが、セーフティネット医療を手がける病院には、若い先生がなかなか集まりません。当院は神経内科の専門病院であるため、神戸大学の神経内科学教室から定期的に若い先生方に来ていただいています。しかし、今後増えていくであろうと予想される神経筋難病や高齢者の病気に対して、興味を持って診療していただける先生は、まだ少ないと感じています。

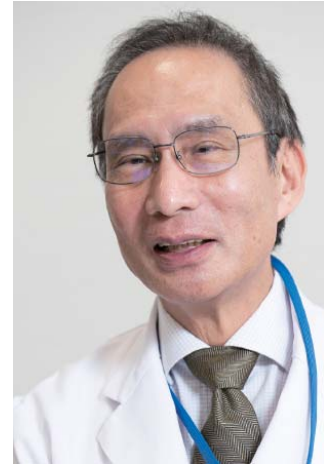
診てほしいという患者さんが来た時に、まず自分

たちのところで診る。最後まで診る能力がなかったとしてもリアージはできるわけです。たとえば、この症状だったら自分の手に負えないけれども、〇〇病院なら……。そういう道しるべになることも、セーフティネット医療としては重要だと思います。

最後に若手医師へのメッセージですが、今は何にでも興味を持って、興味があればすべてやってみてほしいです。1つのことにこだわらずに何でも首を突っ込んでみると、いろいろなことが面白くなってきます。また、若い先生には医者である前に、普通の社会人であってほしい。精神論に聞こえるかもしれませんが、若い人に一番言いたいことです。

私自身は消化器内科が専門ですが、最初からそうだったわけではなく、最初は病理医でした。2年間の研修を経て、その後、大学院に入り、そこでは病理を選びました。8年ぐらい病理を勉強して、それから消化器内科に入りました。

平成9年に当院に来て、そこから本格的に臨床を始めました。今では消化器内科が専門と言いつつ総合内科をやっていて、さまざまな病気を診ています。何でも診るのは、何に対しても興味があるからですが、それ以前に、病理医だった時にいろいろな病気を経験したからです。病理診断もそうですが、内科診断も1つの推理で、自分の知らないことに行き当たるのが面白い。そういう面白さを若い人に是非経験していただきたいと思っています。



院長PROFILE

里中 和廣(さとなか かずひろ)

1983年神戸大学医学部卒業。

1992年米国アルゴン国立研究所細胞工学センター研究員、1997年兵庫中央病院研究検査科長、2005年内科系診療部長、2006年統括診療部長、2007年副院長を経て、2014年同院院長に就任。所属学会：日本内科学会、日本消化器病学会、日本消化器内視鏡学会、日本大腸肛門病学会、日本臨床検査医学会、日本神経筋病学会、日本消化管学会、PEG・在宅医療学会、日本ヘルコバクテリウム学会

兵庫中央病院 DATA

■所在地

兵庫県三田市大原1314
<http://hyogo-chuo-hosp.jp>

■病床数

500床(一般300床、重症心身障害50床、筋ジストロフィー100床、結核 50床)

■診療科目

内科/神経内科/呼吸器内科/消化器内科/循環器内科/糖尿病内科/外科/消化器外科/整形外科/呼吸器外科/リハビリテーション科/放射線科/麻酔科/歯科(入院のみ)

■研修の特色

指導医とともに患者さんを受け持ち、専門医の取得を目指します。当直業務はありません。初期研修医制度の前期研修を、神戸大学とたすき掛けで行い、当院が1年、神戸大学が1年という制度を設けています。神経内科に関しては症例も豊富で勉強になります。神経内科と一般内科とのコミュニケーションの取り方やタイアップの方法を学べるため、独立し立する時に役立つと思います。



広々としたリハビリ室(約750㎡)



認知症疾患医療センター(県指定)



マルチスライスCT(H30.10導入)



病院から見える三田市ニュータウン

兵庫中央病院のある街

大阪・神戸へのアクセスも良く、それでいて自然あふれる環境

兵庫県の南東部に位置する三田市。人口は11万人あり、豊かな環境と穏やかな気候に恵まれている。神戸市や宝塚市と隣接するが、たくさんの緑や花々に囲まれた街で、自然あふれる場所だ。門前・城下町としての歴史もある。

三田市は豊かな自然のもと、農畜産物も豊富だ。代表的なのは丹波黒大豆。黒大豆になる前の未熟な豆が枝豆で、さやの表面は茶色の産毛や茶褐色の斑点がある。贈答用としても人気。三田米も有名で、「コシヒカリ」「ヒノヒカリ」「どんとこい」「山田錦」なども三田米と呼ばれる。最近では自然環境や健康に配慮した米作りもされている。

秋には「さんだ秋の観光と味覚まつり」が開催される。松茸狩り、しいたけ狩り、栗拾いなど、秋の味覚が楽しめるとともに、スイーツの特別販売があるほか、毎年行列ができるほど人気の三田牛の焼肉も楽しめる。三田牛は「但馬牛」に限定され、肉質、脂質ともに上品な味でファンも多いそうだ。

兵庫県下最大の都市公園、「有馬富士公園」では自然学習センターや水辺、草地、林の3つの生態園や野鳥の広場、かやぶき民家、棚田、あそびのくになど、さまざまなテーマの設備があり、三田の自然を満喫できる。

